

第4回江別市地域福祉計画策定委員会（要点筆記）

日時：令和元年11月12日（火）
午前10時00分～午前11時15分
場所：市民会館21号会議室

出席委員数 11名

出席：橋本 菊次郎、中田 雅美、阿部 実、工藤 多希子、工藤 祐三、武田 正義、
中川 雅志、東 則子、武田 克伸、野村 祥二、若宮 由利子
欠席：杉本 英治

事務局：健康福祉部長 佐藤 貴史、健康福祉部次長 三上 真一郎

管理課長 村田 和陽

管理課総務係主査（地域福祉担当）竹下 靖子

子育て支援課長 四條 省人

障がい福祉課長 山岸 博

介護保険課参事（企画・指導担当）鈴木 一成

保健センター長 小椋 公司

江別市社会福祉協議会 事務局次長 玉谷 一二

江別市社会福祉協議会 総務参事 小林 浩昭

（株）サーベイリサーチセンター 北海道事務所 所長 人見 俊介

（株）サーベイリサーチセンター 北海道事務所 林 梢子

（株）サーベイリサーチセンター 北海道事務所 佐々木 香予子

傍聴者 1名

議 事 次 第

1. 開 会

2. 議 事

（1）計画素案について

3. そ の 他

4. 閉 会

村田課長

少し定刻より早いですが、本日出席予定の皆様がお揃いになりましたので、江別市地域福祉計画策定委員会4回目を始めさせていただきます。

本日はお忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

それでは委員長よろしく願いいたします。

阿部委員長

皆さんおはようございます。本日は大変寒い中お集まりいただきましてありがとうございます。ただいまより第4回江別市地域福祉計画策定委員会を開催いたします。

なお、本日杉本委員が欠席する旨の連絡がございましたので報告をいたします。

それでは次第2（1）計画素案について事務局から説明いただきますが、本日はパブリックコメントの前の最後の策定委員会です。せっかくの機会ですので、皆様の色々なご意見を伺い、パブリックコメントに向かっていきたいと思っております。

ただ、本日の会議内で皆様の意見を調整してまとめるのが難しい場合は、後日事務局と調整させていただこうと思っておりますので、その了解のもとで審議を進めさせていただきたいです。よろしく願いいたします。

それでは事務局から説明願います。

村田課長

素案のご説明の前に、第3回策定委員会でお示したアンケート調査結果報告書に対して、中田委員からの修正意見等を反映した内容をご報告させていただきます。

資料1の3ページをご覧ください。「1. 2 調査結果の概要」について、調査概要の文章だけ読んで満足されないように興味を持たせるため、根拠のグラフを付けてはどうかというご意見でしたので、概要を説明している文章にグラフと表を入れ込んで、分かりやすくなるようにいたしました。

続きまして、資料2をご覧ください。第3回策定委員会でお示した素案に対して、各委員からの修正意見等を反映した修正版の素案を事務局で作成しました。大きく変更となった下線を引いた部分についてご説明いたします。「てにをは」や漢字の修正など軽微なものについては、説明を省略させていただきますのでご了承願います。

まず、6ページをご覧下さい。「第2章」、「1」の「(1)」の「① 人口」の1行目から2行目下線部分について、総人口が減少傾向から増加に転じた書き方について、読んだときに分かりやすく変更いたしました。

次に、7ページをご覧下さい。「② 世帯数」の上から5行目の下線部分と同じページの下にある「図表4」のタイトルについて、以前は、「高齢者世帯数」という表記でしたが、工藤（祐）委員からご指摘があったとおり、厚生労働省によると、「高齢者世帯数」という言葉は、「65歳以上のもの、または、18歳未満の未婚の者も加わった数」とありますことから、誤解のないように、「65歳以上の高齢者のいる世帯数」に変更いたしました。

次に、9ページをご覧ください。「① 年少人口」の上から1行目の下線部分について、江別地区の内容と市全体の内容が混同されて分かりづらかった表記を、きちんと分けた表現へ修正しました。

少し飛んで、20ページの基盤整備の状況図をご覧ください。中田委員からのご指摘で、豊幌地区が抜けているということでしたので、豊幌地区の図を20ページと21ページの図に追加しました。

次に、24ページをご覧ください。まず、「基本目標2」の2段落目の記述について、担い手の掘り起こしに関するアンケート調査結果で、武田（克）委員より、「市民もいます」という表現だとどの位か分からないので、「市民も少なからずいます」という表現へ変更をした方が良いのではないか、というご意見に対して、この部分も含めて、文章全体を修正いたしました。

次にその下、「基本目標3」の記述について、武田（克）委員より、「災害時の救援体制の整備」に関する文章について「交通の利便性」に関する記述が入っているため、「交通の利便性」は、災害時だけのことではないため理解しづらいというご指摘がありましたので、災害時の支援と交通の利便性の記述を、段落を分けて記述いたしました。

次に、33ページをご覧ください。上から4、5行目に対応する部分の性別・年齢別の表が抜けていましたので、追加いたしました。

次に、37ページをご覧ください。基本目標2の本文の上から7、8行目の下線部分について、工藤（祐）委員より、「地域参加やボランティア参加は、他人のためでもあるが、自分の生きがいくくりや自己実現につながるもの」が行間からにじみ出ればというご要望に対して、「支える側、支えられる側のいずれの生活もより充実したものとなることを目指し」という表現を追加いたしました。

次に、44ページをご覧ください。「① 担い手の掘り起こしの推進」の本文の下から2行目の下線部分について、武田（克）委員からのご指摘により、「興味」という言葉を「関心」へ変更しており、その下、「② 担い手の人材育成」の本文1行目の下線部分についても同様に変更しております。

次に、47ページをご覧ください。「① 地域における連携体制づくり」の本文、上から3行目と4行目の下線部分について、どちらも「精通した」という表現を使っておりましたが、武田（克）委員からのご指摘により、上の自治会や民生委員に関しては「把握した」という表現に、下のNPOや事業者については「詳しい」という表現へ変更いたしました。

次に、48ページをご覧ください。「① 地域のサロン・集いの場づくり」の本文1行目の下線部分について、武田（克）委員からのご要望で、「中心となる場所の記述ができないものか」あるいは「集まりやすい場所」についての記述を加えられないかということで、「子育てひろばや通いの場など」という表現を追記させていただきました。

次に、戻っていただき、43ページをご覧ください。各基本目標の基本施策別に成果指標と基準値、目標値を改めて設定したのでご説明いたします。

成果指標と目標値については、地域福祉計画策定にあたって、国の方針の中で、目標を定めることが計画に求められているため、今回の計画で新しく設定しております。

この目標値は、毎年度ではなく、次期計画を策定するときに確認する数値でございます。

他市の今現在の地域福祉計画における指標の設定状況としては、札幌市では、ほとんどの施策単位で個別の事業を一つずつ設定しており、中には一つの施策で5つ設定している部分もございます。また、旭川市では、3つの大きな目標ごとにそれぞれ1つずつ、アンケート調査の結果に基づいた指標を設定しております。

まず、「基本目標1」の成果を計る主な指標を基本施策別に記載しております。

内容としては、市民アンケート調査結果によって指標が取れるものと、行政や福祉団体の事業内容等から基本施策の内容に関連した主な指標が取れるものを併せて設定しております。

表の1行目の指標は、「基本施策1 関係機関による相談支援体制の充実」と「基本施策3 支援につなぐ体制づくり」に共通した内容で、アンケート調査結果から「日常生活の問題や不安なことを相談する先がある市民の割合」を指標としております。

基準値は、「どこに相談したらいいかわからない／相談できる相手がいない」3.8%と、「誰にも相談したくない」1.5%と、「無回答」3.1%を合計した8.4%を、回答者全体100%から引いた値の91.6%です。

目標値の考え方としては、5年前のアンケート実施の結果と比べると、基準値から0.9%増加しており、今後も同程度の伸びを期待し、基準値に0.9%をプラスして、端数を切り上げて、93%を目標値としました。

次に、2行目の指標は、「基本施策1 関係機関による相談支援体制の充実」について、市で把握した「子育てに関する相談件数」について指標としました。指標設定の考え方としては、上位計画である市の「第6次総合計画」において四つある基本理念のうちの一つが、「子育て応援のまち」であることから、「子育てに関する相談件数」を指標としました。

基準値は、子育て支援コーディネーターによる「子育てサービス利用者支援事業」で取得した相談件数の平成30年度実績833件に、「すくすく、ぽろっこ、ぽこあぼこ、子育て支援センター」における相談で取得した平成30年度実績984件を合わせた、合計1,817件です。

目標値の考え方としては、前年度実績と比べて48件の増加となっていることから、子育て支援に関しては、今後もこのまま伸びていくことを想定し、年間40件の増加として、5年間で200件の増加を想定し、端数を切り捨てて、2,000件を目標値としました。

次に、3行目の指標は、「基本施策2 福祉サービスなどに係る情報提供の充実」について、アンケート調査結果から「福祉全般に係るサービスなどの情報を入手できている市民の割合」を指標としております。

基準値は、「情報の入手方法がわからない」5.5%と、「情報の入手先がない」0.8%と、「無回答」6.0%の合計12.3%を、回答者全体100%から引いた値の87.7%です。

目標値の考え方としては、これを前回アンケート実施の結果と比べると、「情報の入手方法がわからない」で0.9%減少し、「情報の入手先がない」で2.5%減少しているため、5年後も同じぐらい減少すると想定し、これに「無回答」を加えると10.6%となり、回答者全体から10.6%減じた89.4%の端数を切り上げて、90.0%を目標値としました。

次に、下から2行目の指標は、同じく「基本施策2 福祉サービスなどに係る情報提供の充実」について、市で把握した「江別市のホームページにおける福祉関係ページへのアクセス数」を指標としました。

指標設定の考え方としては、アンケート調査結果でも、市の広報誌やチラシなどに次いで、情報の入手手段としてインターネットが上位であり、また、福祉サービス全般の情報提供の手段の一つとして、市のホームページによる情報提供は重要な位置付けであることから指標としました。

基準値は、ホームページのドメインと言われるインターネット上の「住所」にあたる部分に健康福祉部内の所属名称が入っているものを抽出し、平成30年度の合計は416,145件です。

目標値の考え方としては、前年度実績と比べて約21,000件の増加となっていますが、その前の年度では、約5,000件減少していることもあることから、過去2年の平均した年間増加数を約8,000件として、5年間で40,000件の増加を想定し、端数を切り捨てて、456,000件を目標値としました。

次に、一番下の行の指標は、今回の計画で新設した「基本施策3 支援につなぐ体制づくり」について、市で把握した「生活困窮者自立支援機関」における「支援実績の延べ件数」について指標としました。

指標設定の考え方としては、生活困窮者自立支援機関は、「第2のセーフティネット」と言われているもので、生活に関する困りごと全般についての相談機関であり、包括支援センターや民生委員などとの地域の連携を積極的に行っていくものであり、「支援につなぐ体制づくり」において大変重要な事業として位置付けられていることから指標としました。

基準値は、当該機関の支援調整会議回数や他機関と調整件数や会議数などの延べ件数の平成30年度の合計3,197件です。

目標値の考え方としては、前年度実績と比べて744件の増加となっていますが、平成27年度の事業開始から4年経過し、事業の周知により相談件数が落ち着くものと考え、3割程度の増加数で年間約210件と見込み、5年間で約1,000件の増加を想定し、端数を切り捨てて、4,000件を目標値としました。

次に、47ページをご覧ください。「基本目標2 互いに支えあう地域づくり」についてです。

まず、1行目の指標は、「基本施策4 福祉を担う人材などの確保・育成」について、アンケート調査結果から「地域活動やボランティア活動などの支援活動に『現在参加している／参加したことがある』市民の割合」を指標としております。

基準値は、34.7%であり、目標値の考え方としては、「参加したことがないが、機会があれば参加したい」と回答した方が27.9%いらっしゃいますが、過去から同様の内容のアンケート調査結果では、「機会があれば参加したい」方が、「実際に参加」したことがあるへ移行する割合は、極めて低い傾向にあることから、「参加したことがないが、機会があれば参加したい」と回答した方27.9%のうちの1/4程度の約7%の方が、5年後に「実際に参加」するへ移行すると想定し、端数を切り捨てて、40.0%を目標値としました。

次に、2行目の指標は、同じく「基本施策4 福祉を担う人材などの確保・育成」について、市で把握した「認知症サポーター数」について指標としました。

指標設定の考え方としては、65歳以上の高齢者数が増加傾向にあるため、認知症に関する正しい知識と理解を持っている「認知症サポーター」が、地域や職域で、認知症の人や家族に対して手助けを行っているとともに、まちづくりを担う地域のリーダーとして活躍することも期待されていることから、今後ますます重要である「認知症サポーター」の数を指標としました。

基準値は、サポーター養成事業の推進団体である全国キャラバン・メイト連絡協議会のホームページに掲載されている市町村別の「認知症サポーター」数で取得した平成30年度の江別市内における人数である8,784人です。

目標値の考え方としては、介護保険課の個別計画である「認知症施策の推進計画」に基づいた年間増加率20%に基づき担当課で算出した5年後の値として、12,797人を目標値としました。

次に、3行目の指標は、「基本施策5 地域における福祉活動の促進」について、アンケート調査結果から「日頃、近所の人と『困っているとき、相談をしたり、助け合う』市民の割合」を指標としております。

基準値は、10.7%であり、目標値の考え方としては、「困っているとき、相談をしたり、助け合う」の回答について、前回アンケート実施の結果と比べると、1.6%増加していることを考慮し、5年後も同様の増加を見込むと、12.3%となり、端数を切り上げて、13.0%を目標値としました。

次に、4行目の指標は、同じく「基本施策5 地域における福祉活動の促進」について、社会福祉協議会で実施している「愛のふれあい交流事業の自治会実施事業数」について指標としました。

指標設定の考え方としては、住み慣れた地域で、健康で安心して暮らすために、自治会が主体となって、活動地域の高齢者や障がい者などのために助け合う活動の一環として、閉じこもりを防止し、心身のリフレッシュを目的に実施している事業であり、「地域における福祉活動」において重要な事業として位置付けられていることから指標としました。

基準値は、当該交流活動事業の平成30年度の実績である347事業です。

目標値の考え方としては、前年度実績と比べて6件の増加となっており、5年間で約30件の増加を想定し、端数を切り上げて、380事業を目標値としました。

次に、下から3行目の指標は、「基本施策6 ボランティア団体などの活動促進」について、情報発信の観点から、アンケート調査結果により、「活動に参加しない理由で『活動の内容がよくわからないから』と『どこで活動しているのかわからないから』を選択した市民の割合」を合計して指標としております。

基準値は、10.8%であり、目標値の考え方としては、「活動の内容がよくわからないから」が前回アンケート実施の結果と比べると、0.9%増加しているため、これ以上の増加に歯止めをかけて5年前の水準に戻し、「どこで活動しているのかわからないから」が前回アンケート調査の結果と比べると0.7%順調に減少しており、今後も同水準で減少することを考慮し、5年後を計算すると、9.2%となり、端数を切り捨てて、9.0%まで下げることが目標値としました。

次に、下から2行目の指標は、同じく「基本施策6 ボランティア団体などの活動促進」について、社会福祉協議会で実施しているボランティアセンターの運営における、「ボランティア協力延べ活動人数」について指標としました。

指標設定の考え方としては、ボランティア活動の中心を担う人材であるボランティアの方々が活動した延べ人数をそのまま指標としました。

基準値は、当該事業の平成30年度の実績である9,163人です。

目標値の考え方としては、前年度実績と比べて延べ839人の増加となっており、今後も増加していくものと考えられますが、平成27～28年度で、123人しか増えなかったこともあり、同程度

の高い伸びは期待できず、年間約2割の167人の増加と、5年間で835人の増加を想定し、9,998人の端数を切り上げて、10,000人を目標値としました。

次に、一番下の行の指標は、「基本施策7 協働による地域福祉体制の推進」について、アンケート調査結果から、「市と住民が一体となり、協力して福祉活動が『十分行われている』と『まあ行われている』と感じる市民の割合」の合計を指標としております。

基準値は、19.6%であり、目標値の考え方としては、「十分行われている」が前回アンケート実施の結果と比べると、0.7%減少し、また、「まあ行われている」が4.5%減少しているため、まずは、減少傾向に歯止めをかけ5年前の水準に戻すこととし、5.2%増加させる必要があることから、端数を処理して、24.0%まで上げることを目標値としました。

次に49ページをご覧ください。「基本目標3 地域福祉を推進する環境づくり」について、1行目の指標は、「基本施策8 支えあい意識醸成と環境づくり」について、アンケート調査結果から「29歳以下の回答者の中で地域活動やボランティア活動などの支援活動に『現在参加している／参加したことがある』市民の割合」を指標としています。これは、地域の担い手が高齢化していることを受け、アンケート調査結果から「29歳以下」の女性の参加意欲のある回答者が高かったことと、さらには、若い世代にもっと地域活動へ参加してもらいたいと考えて指標としたものです。

基準値は、29歳以下の男女の回答者を100とした場合に、「現在参加している／参加したことがある」割合を再計算した結果が、20.8%です。

目標値の考え方としては、「29歳以下」の回答者の中で、「参加したことがないが、機会があれば参加したい」と回答した方が39.6%いらっしゃるが、これの方がすべて、「現在参加している／参加したことがある」に移行するとは考えづらく、「現在参加している／参加したことがある」割合を今の20.8%から、25.0%へ、「29歳以下」全体の4分の1程度までになるように目指したいと考え、25.0%を目標値としました。

次に、2行目の指標は、同じく「基本施策8 支えあい意識醸成と環境づくり」について、社会福祉協議会で発行している「江別市内『通いの場』情報誌」への掲載団体数について指標としました。

指標設定の考え方としては、高齢者をはじめとした様々な対象者に対して、スポーツや健康づくり、集いの場などの様々な内容で開催している「通いの場」の創出が、「支えあい意識の醸成と環境づくり」において重要な内容として位置付けられていることから指標としました。

基準値は、平成30年度末で「江別市内『通いの場』情報誌」に掲載されている191団体です。

目標値の考え方としては、現在、第2版が発行されており、既に224団体の掲載がありますが、「通いの場」自体の具体的な定義や範囲がなく、囲碁やカラオケなどの様々なサークルが今後も継続して存在するかどうかわからない状況であり、また、主な目的が「通いの場」の数を単に増やすことではなく、多くの市民に参加してもらうことであるため、全体としてこの「通いの場」情報誌に200団体以上を掲載し続けて多くの市民に参加してもらうことを考え、200団体以上を目標値としました。

次に、下から2行目の指標は、「基本施策9 快適に暮らせる生活環境づくり」について、アンケート調査結果から、「日常生活での不安や悩みがない市民の割合」を指標としております。

基準値は、「とくに問題や不安はない」と回答した方が 17.4%であり、目標値の考え方としては、前回アンケート実施の結果と比べると、5.4%減少しており、まずは減少傾向に歯止めをかけ 5 年前の水準に戻すと、5.4%増加させる必要があることから、端数を処理して、22.0%まで上げることを目標値としました。

次に、一番下の行の指標は、同じ「基本施策 9 快適に暮らせる生活環境づくり」について、社会福祉協議会で実施している「障がい児者移動支援事業ガイドヘルパー利用件数」について指標としました。

指標設定の考え方としては、障がい児者に対する移動支援事業が、障がいの認定を受けて、屋外での移動に著しく制限を受けた方が、外出の際にガイドヘルパーを利用することで、円滑な社会参加ができるようにすることを目的とした事業であり、「快適に暮らせる生活環境づくり」において重要な事業として位置付けられていることから指標としました。

基準値は、平成 30 年度実績の 818 件です。

目標値の考え方としては、前年度実績と比べて 49 件の増加となっており、利用者が固定化してきている傾向もみられることから、その 3 割程度の 14 件の増加を想定し、5 年間で 908 件、端数を切り捨てて、900 件を目標値としました。

阿部委員長

ありがとうございます。ただいま事務局から修正と目標値の説明がございました。これを踏まえまして皆様のご意見をお聞きしたいと思います。

大変広い範囲になりますが、パブリックコメント前の最後の機会ですので是非細かい問題でもいいのでお話し下さい。

東委員

とても丁寧に説明していただき、その上で拝見するととてもよく分かりますが、説明を伺う前は、43 ページの「基本目標 1 の成果を計る主な指標」の 2 行目の「子育てに関する相談件数」が 1,817 件から 2,000 件に増えるということで、そんなに困る人が増えるのかという印象でした。

また、5 行目の「生活困窮者自立支援相談事業の支援実績」につきましても、困る人が増えるという印象を持ちまして、それが目標になるというのはどういうことだろうと考えておりました。

先ほどの説明で、子育てに関しては総合計画で子育て支援が重要であるというお話でしたし、生活困窮者に関しては支援のための会議数等が指標の数字になっているというお話でしたので、サービスが充実していくと理解することができました。

ただ最初に拝見した時には、その理解が出来ておりませんでしたので、市民の方に対してもう少し丁寧に説明していただけると、設定した根拠が分かると思えました。よろしく願いいたします。

村田課長

相談件数が多いことが良いのかという問題はありますが、まずは事業を大きく広めて、事業を知らない方にも知ってもらい相談につなげてもらうことも一つの大切な側面と考えております。書き方については、事務局で検討したいと思います。

橋本委員

丁寧な説明ありがとうございました。今のご意見と重なるところもあると思いますが、基準や目標がどのような算定根拠に基づいて出たのか説明がないとその評価が難しいです。5年後またアンケートを取るというお話もありましたので、どうしてこの目標値が算出されたのかというところは、説明がない限り評価がしづらいと思いますので、算出根拠を示してはどうでしょうか。

村田課長

札幌市の例を見ますと、考え方の記載がございますので江別市なりに文章を考えてみたいと思います。

阿部委員長

その他ありませんか。女性団体協議会の立場から工藤さんいかがですか。

工藤（多）委員

資料を拝見いたしました。私にとってはとても分かりやすく、読みやすく、理解しやすいと感じておりました。

その中で何点か感じたところがありました。計画の提案とは異なる点がありますが、民生委員をさせていただいておりますので感じたことは、13 ページ「担い手不足」についてです。これまで民生委員一人当たり約 250 世帯を担当しています。以前より世帯が増えるなか、民生委員の人数はそのままの状態です。こと細かな悩み、相談が多くある中、負担も多く「担い手不足」に関係しているのではないかと感じておりました。地域に応じて人数を増やし、共に行政と関わりながら問題を解決していきたいと考えております。その他につきましても担い手不足ではありますが、地域においては自治会が一番大事になってきておりますので、地域で何をしていくかをみんなで考えられるような組織になれば良いと思います。

また、前回のアンケート調査結果を見て、「こうして欲しい」、「何して欲しい」という意見が多くありました。拝見する中で「このような事をしていくと江別市は良くなっていくんだよ」という方が多く増えていくことで、アンケート調査やパブリックコメントに建設的な意見がもっと述べられるようになってくるのではないかと感じております。地域が一番大事だということを市民が自覚していけないといけないと考えておりました。

続けて、ここで言うのは大変申し訳ないとは思っていますが、アンケート結果についてもう一段階下げて、皆さんと「ここはこうだね」などとコミュニケーションを取りながら審議できると、もっと最高に良い意見を出せるのではないかなと思います。そのことにより、また一つ地域福祉計画への皆さんの意識が高まっていくような気がしています。今後また機会がございましたら、そうい

った場面も作っていただけたらなと思っております。この調査について行政の力を注いでいただいていることに感謝します。

村田課長

大変貴重なご意見いただきましてありがとうございます。

アンケート調査結果の細かい内容につきましては各計画にも管理課から投げかけますので、その各部署で対応してもらえと思えますし、またアンケート結果に基づいたコミュニケーションのあり方につきましては今後地域福祉計画を策定する会議を開くうえで、検討させていただきたいと思えます。

なお、民生委員数は、今回の一斉改選につきましては既に定数が決定しておりますので、増員はできませんが、高齢化と担い手不足は非常に大きな問題と捉えています。担い手不足につきましては、民生委員の活動内容の周知を第一にやらなければいけないと思っております。行政といったしましてもそこに力を入れて多くの方に民生委員はどんな活動をしているのか知ってもらうとともに、民生委員は仕事との両立も可能であることも含め周知していくことができれば、担い手も増えていくのではないかと、あるいは高齢化に歯止めがかかるのではないかと考えているところでございます。

野村委員

パブリックコメントですが、実施結果を見ますと意見数がどこについても非常に少ない状況になっています。

また、アンケートに答えた人はそれがどうなったのかなど興味を持っていますので、市民アンケートを送付する段階で、アンケート用紙にパブリックコメントの募集やアンケート結果をホームページに掲載することなどを記載し周知していただけると良いです。

村田課長

アンケート調査の送付時の対応については、今後検討させていただきたいと思えます。

中川委員

内容的には協議してきたのでよろしいと思えますが、先ほども話にありました43ページについてです。なぜこのような目標を立てたのか若干で良いので説明があると分かりやすいと思えます。それぞれ施策に対して目標を持っているので、これはこれで理解しますが、目標を立てるに当たっての考え方を少し入れると、先ほどの意見にも対応できると思えますので検討していただければと思えます。5つ全ての説明は難しいと思うので代表的なものでもいいです。

また、市民アンケート調査結果の方は既に出来ているので申し訳ないですが、自由記載欄について膨大な量になっているので少しでも項目ごとにまとめがあっても良いという感想を持ちました。

皆さんそれぞれ自由に記載されているので、まとめるのは非常に難しいかもしれないですが、傾向が分かれば読みやすいアンケート調査結果になるのではないかなという印象です。

村田課長

まず、43 ページの基本目標の指標の書き方につきましては、先ほどのご意見も踏まえまして検討させていただきたいと思います。

また、アンケートの自由意見の内容をまとめの形にするかどうかは事務局で検討させていただきたいと思います。なお、個人が特定されるような内容は削って掲載しております。

中田委員

先ほどからの指摘と同じように地域福祉計画の評価という点で、目標の設定について気になるところがあります。これまでと同じような趣旨ですが、先ほどのご説明で設定の仕方がとても丁寧であり、施策に照らして設定されていることが分かりましたが、その説明が必要です。

例えば、地域福祉計画をただ策定するだけではなく、見直しをしなければならないという背景があってこの目標としたという説明でしたので是非その辺りを書いていただければ良いです。そうすると、ただ目標を設定しただけではなく、それは数値的な根拠があるものであり、それをクリアすることをこの計画では目指しているということが、より分かりやすくなるのではないかと思います。一つ一つの指標ごとに記載するとボリュームが大きくなるので、あまり丁寧な記載は難しいとは思いますが。

また、先ほどの東委員の意見ですごく大事だと思ったのが、子育てに関する相談件数が増えるということは、困っている人が増えるということではないかということです。相談を受ける側のことしか考えていない私からすると大事な指摘だと思いました。

それが地域住民にとってどのような意味なのかを考えると、例えば子育てに困った人が相談しやすい環境を作るという意味で、相談してもらえる人が増えるということは、困っている人を解決に導きやすくなるということにつながります。そのため、相談件数が増えるということは、ネガティブではないということを書きいただくことが、シンプルだけど大事な指摘だと思ってお聞きしていました。

また必要かどうかは分からないのですが、今のことをもとに改めて見直してみると、1、2、3期の計画時の過去の数値も併せて記載しても良いのではないかと思います、例えば2014年の基準値前の参考値があれば、過去の増減の経過が分かるので、5年後の数値の捉え方も変わるものと思っております。今から先だけではなく、今までや今も入れると、過去、現在、未来と分かりやすいのではないのでしょうか。

最後に一点、先ほど工藤(多)委員が話されていた意見に大賛成で、地元の人たちで解決できる仕組みを作るというのはすごく大事だと個人的に思っております。行政対市民ですと、市民が行政に「こうして欲しい」ということばかりが出てきて、「自分たちの地域だから自分たちで出来ることをやりましょう」と行政がどれだけ言っても、「やらされている」というやり取りのみになります。

例えばですが、今後計画を立てる時の参考として自分が関わったことのある地域福祉計画では、地区ごとに住民懇談会など地域住民が話し合う機会を地域福祉計画の策定と称して行っていたという例が結構あり、自分も学生と共に大学の関係者として入っていたことがありました。そこでは「この地域のいいところはどこですか」や、「5年後、10年後はこの地域がどの様になって欲しい

いですか」、「その地域がこの様であって欲しいなどあれば、その様にするためにあなたは何ができるでしょう」という内容の話し合いを、集落ごとなど各地区で行っていました。その時は集落ごとにやっていたのですが、例えば小学校区、中学校区などでやってみるというのも一つかと今意見をお聞きしながら思っていました。

また、せっかく関係機関の方がいるので、アンケート調査結果や素案をもっとざっくりばらんに話し合い、リアルな声が聞きたいという気持ちを持っていましたので、先ほどの意見に賛成と思いつながら伺っていました。

村田課長

今の中田委員のご意見は大変貴重なものとしてこちらとしても受け止めたいと思っております。

先ほどからの指標の考え方や設定の仕方についてを記載することにつきましては、過去からのつながりまで記載できるかは分かりかねますが、事務局で改めて検討させていただきたいと思っております。

また、地域の課題を地域で解決するというところで、地区懇談会は市民の意見を吸い上げる意味では大変重要かと思っております。これにつきましては今後計画を策定する上での検討とさせていただきますかと思っております。

武田（克）委員

これだけもののものをこの期間にまとめられて担当の人たちの苦労がしのぼれ、本当に頑張って仕事をしてくださっているのだと感じています。その中で三つほどお話しさせていただきます。

一つは、アンケートにも答えられないような日本語がよく分からない方などへのサービスなど、地域福祉でできることについて触れていなくてよろしいでしょうか。これからの時代、他の国の方々も来ると思います。多様な人たちが多様な宗教感や生活感を持っていると思いますが、そういう方々への配慮も地域福祉計画に反映していく時期に来ていると感じておりますので、今後の課題にさせていただければと思います。

また、個別で細かいですが自治会の加入率が67%位になっています。私が住んでいる集合住宅では、子育てが終わって子どもたちがある程度大きくなると自治会をやめる方が結構います。隣近所とのお付き合いもありますし、月300円や400円の負担など色々かと思いますが、自治会が中心になって地域福祉を進めていくうえで、自治会への加入者を増やしていくことについてもう少し具体化されればと思います。

また、市の広報や回覧板は自治会に入っていない方には配布されない、回されないです。回すべきではないかと自治会の総会などで言っています。インターネットや他に色々のものがありますが、回覧板も重要ではないかなと思っております。また、インターネットを見ることができない方々もおられると思います。広報はスーパーやJRの駅などにも置いてあるのは分かりますが、そこに書かれている内容は大変重要な内容もあるかと思っておりますので、その点も含めて今後のことをお願いしたいと思います。

また豊幌地区の地図が入りましたが、何もありません。アンケートの個人意見で「豊幌地区はこうです。こういう問題があります。」と意見を寄せられている方がいましたが、豊幌地区に対す

る配慮は触れなくてもよろしいでしょうか。車があれば別ですが、公共の交通機関のみでしか移動できない方もいると思います。かえって上幌向の方面や岩見沢へ行った方が近いのかもしれませんが、岩見沢市の方が率直に言って医療は江別市より進んでいる部分があると思います。地図を入れていただいたのはいいですが、何も無いのは少し引っかけます。「どうしてくれるんだ」と言う住民の方もいるかと思えます。どこかの場面で整備していただければと思います。ありがとうございました。

村田課長

市内在住で日本語がよく分からない方の対応などにつきましては、今後検討させていただければと思います。また、自治会の加入に関することにつきましては、所管部局に伝えておきます。現在転入者については、自治会に加入するようお便りでお知らせしておりますが、なかなか加入率が増えないところではございます。また市の広報や回覧板をきちんと周知すべきではないかというところにつきましても所管に連絡しておきたいと思えます。

豊幌につきましては駅にまだきちんとした設備がないので、周辺整備に関しましては今後の課題にさせていただければと思っております。

地域福祉計画は、大きな枠組みの計画になっておりますので、個別の意見につきましてはそれぞれの所管にお伝えするなど、対応して参りたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

工藤（祐）委員

結果的に十分な内容になったと思っております。読みやすくするにはどうしたらいいかと考えていたのですが、結果的にはこれでいいのかと思っております。

申し訳ありませんが、目次のところで、「第3章 5施策の展開」が39ページから始まると書いていますが、「5施策の展開」の「基本目標1」の「基本施策1、2、3」、がまとめて43ページに「基本目標1の成果を計る主な指標」と記載されています。

従って、この43ページの「基本目標1の成果を計る主な指標」は、本来は「基本目標1（基本施策1、2、3）の成果を計る主な指標」となり、以下の記載についてもその様になっていくと思います。少なくとも「基本目標1の成果を計る主な指標」の「基本目標1」が大きな見出しとはならないと思います。

これは、「施策の展開」の中の「支えあいの仕組みづくり」の中の「基本施策1、2、3」の主な指標なので、じっくり読んでいただける方は分かっていたのではないかと思います。43ページの「基本目標1」という字があまりにも目立ちすぎだと思いでいました。

市民の皆さんは素直に読んでくれるかな、これでいいかなと思いで迷いますが、以下事務局の判断にお任せします。

村田課長

実はこの指標は、当初51ページの「計画の評価」に一覧で載せていましたが、分かりづらいということで各基本目標に分散させました。策定委員会の直前でしたので、タイトルの「基本目標」

が非常に大きくなってしまいました。ページ構成につきましてはまた改めて検討させていただきたいと思っております。

工藤（祐）委員

お任せしていいですよ。

阿部委員長

はい、いいです。ありがとうございます。その他何かございましたらお願いいたします。

橋本委員

こだわっている感じで申し訳ないですが、評価についてです。51ページの「計画の検証」の部分に今回から市民アンケートが盛り込まれています。

そこに加え目標値が出たので評価がしやすいですし、前進したと思っております。

計画に新たに追加して欲しいということではないですが、他市がどんなことをやられているかを調べてみました。福島県会津若松市も人口規模12万人程で江別と同じような人口規模の市ですが、こちらでは地域福祉活動計画の評価検証委員会というのを立ち上げていて、外部評価をしています。また、岐阜県多治見市も11万人程の規模ですが、こちらも地域福祉計画評価委員会というのを設置しています。

委員は、会津若松市では、学識経験のほか地域の関係団体ということで区長会や民生児童委員会の協議会、活性化協議会、地域づくり委員会、地域包括の連絡委員会、障がい者ボランティアなどで構成されており、多治見市でも同じような構成で実施されています。計画は関わって初めて分かることが沢山あるので、その点でも外部評価は大事だと思っております、先ほどの懇談会などもそうですが、生の声を聞くなど、客観的な評価に加え主観的な評価も実は必要なのかなと思っております。自由意見やアンケートも大事だと思っております、今回は外部評価機関は難しいと思っておりますが、将来的にあってもいいのではないかと思いますので、参考までにお話ししました。よろしく申し上げます。

村田課長

外部評価委員会を立ち上げるのは厳しいかもしれないですけども、江別市では社会福祉審議会という各団体あるいは市民が入っている会議で、計画の評価の報告を行っております。今後評価につきましては事務局の方で検討させていただければと思います。

阿部委員長

大変貴重な意見を沢山いただきました。ありがとうございます。

東委員

意見というよりも希望ですが、大変よく記載されているアンケート調査報告書で、貴重な個々のご意見も記載されております。独自の問題だけの可能性のご意見も多くありましたが、市民の方の困りごとや不安などが広く分かる調査結果だったと考えております。

このあと地域福祉計画では方向性が示され、その後に具体的な各個別計画につながっていくものだと思いますので、その各計画を策定する委員会などでこの調査結果報告書を参考にしていたけると良いのではないかと思います。

村田課長

市民アンケートの個別意見につきましては大変貴重な市民の皆様のご意見でございますので、これは各所管と相談しながら今後どうしたらいいか検討したいと思っております。

阿部委員長

意見が大体出尽くしたように感じましたが、いかがでしょうか。

先ほど言いましたように、今日の色々なご意見をここで全て調整しきれない部分は、事務局と私で調整させていただきたいと思っております。

その他に移ります。事務局からお願いします。

村田課長

皆様ご審議大変ありがとうございました。12月上旬から1月上旬にかけて実施されますパブリックコメントに向けて、委員長と事務局とで最終的な調整をさせていただきたいと思えます。パブリックコメント開始時には素案を皆様に送付させていただく予定です。

また、今後のスケジュールでございますが、パブリックコメント実施後の1月下旬頃に第5回の策定委員会の開催を予定しております。パブリックコメントの結果を踏まえましてご審議いただく予定でございます。また近くなりましたら開催通知を皆様へ送付させていただきますのでよろしく願いいたします。

阿部委員長

次回1月下旬頃に第5回策定委員会を予定されておりますのでよろしくご協力お願いいたします。以上を持ちまして本日の審議事項は全て終了いたしました。